

かわろばん

NUMBER
107

川崎異業種研究会

○発行/川崎異業種研究会広報部 ○発行日/平成19年4月2日



定例会報告

【12月定例会】

平成18年12月14日（木）午後6時より、しゃぶしゃぶ・どん亭川崎店にて、26名出席。

〔内 容〕

事務局より、平成19年2月21日～22日川崎市とどろきアリーナで開催される『第1回かわしんビジネスフェア』についての出展依頼の説明があった。また川異研創立20周年記念事業の開催場所は、圧倒的賛同を得た川崎日航ホテルに決定し、式典・懇親会規模は120名程度のものにし、臨時会費として1社2万円程度の負担があることについて説明があった。続いて小林副会長より乾杯の挨拶があり、さらに今回新しく入会したエスイー取締役の金子一郎氏より自社紹介の挨拶があった。たらふく飲んで食べて今年を終えることを主眼にするため、今回は食べ放題・飲み放題コースを用意し、次々とおかわりする人が続出し、あちらこちらで酒を酌み交わし談笑する光景がみられ、終始和やかなうちに懇親会が行われた。

最後に20周年記念事業の竹之内実行委員長が1年を締めくくる閉会の挨拶と20周年記念事業の成功を祈念し、盛況裡の内に終了した。

【2月定例会】

平成19年2月8日（木）午後5時30分川崎商工会議所会議室にて、21名出席。

〔内 容〕

理事会報告として、竹之内実行委員長より20周年記念イベントについて説明があった。事務局からは20周年記念誌のCD化と「かわしんビジネスフェア」の再募集及び2社新入会があった旨の説明があった。今回見学者として東海技研(株)川久保洋氏からは自己紹介があった。

続いて、生田忠秀氏より「素顔の後藤田正晴氏」と題して講演頂いた。

この中で生田氏は、最後の官僚といわれた後藤田正晴氏の人となり語った。後藤田氏は大正3年生まれで、幼少の頃より不幸の連続。7歳で父親、9歳で母親を亡くし、母の姉に引き取られた。水戸高校から東大法学部へと入学するが、それほど優秀ではなかったようで、卒業後も内務省の土木局とエリートコースとは言いがたかった。その後召集され台湾で終戦を迎える。戦後は警察庁に勤務する。読売新聞社社主・井上與三次氏のことを人間が崩れていないと表現した。これは、権力を持った人間は年とともに横柄になったり、物事を投げ出したりするが、彼にはそういうところがなかった。政治とは1日が商売であると説き、毎日命をかけているという生き方をしていた。宮沢内閣の法務大臣時代は、個人的には死刑廃止論者であったが、法務大臣になるということは法律に従うという理由で、死刑制度がある以上判を押すという態度を貫いた（歴代の法務大臣が判を押すのを拒否していたため、書類がたまっていた）。プライベート面では、泣き虫・ギャンブル好き（マージャン好きだが弱かった）、株が好き（勤がよかったので儲けていたらしい）、癩癩持ち、お天気屋（婦人談）で、人間的には線が太く厚味のある温かい人としての印象が強い、と説明した

【3月定例会】

平成19年3月15日（木）午後5時30分 川崎商工会議所会議室にて、17名出席。

〔内 容〕

理事会報告として、竹之内実行委員長より20周年記念イベントについて説明があった。事務局からは、それぞれ1件の入会と退会届があった旨の説明があった。

続いて、かわさき市民放送㈱代表取締役社長の嶋田明哉氏より「最近の放送事情」と題して講演頂いた。

この中で嶋田氏は、テレビ新広島を定年退職した後、民間の活力を導入するため昨年初の6代目社長として就任。現在マスコミ4媒体の広告費は3兆6千億円で、テレビ2兆円・新聞1兆円・雑誌4千億円・ラジオ1800億円となっているが、インターネット広告が伸びており3600億円（前年比29.3%増）で今年は3位の雑誌を抜く勢い。業種別に見ると、化粧品3500億円、食品2900億円、金融・保険2800億円と続いているが、注目すべきは有料音楽配信（534億円）がCD（500億円）を上回ったこと。ツールの変化が激しく、最後は携帯電話に集約されることになる。著作権問題では、従来死後50年まで保護されていたが、米国ではウォルトディズニー問題から70年に延長したため、世界の潮流は70年へ移行している。2011年7月24日からデジタル化されることに伴い、空いた周波数の争奪戦が始まっている。コミュニティーのラジオ業界と通信業界それと異業種との三つ巴の奪い合い。かわさきFMは幸区・中原区・高津区・宮前区の4区しか免許をとっていなかったため、それ以外の区は聞きづらいという苦情が来ていたが、出力を10ワットから20ワットにアップしたのでだいぶ解消された、と説明した。

場所を変えた懇親会では小林次期会長より乾杯の挨拶があり、嶋田氏を交えそこかしこに話の輪が広がり懇親を深めていた。最後は羽曾部副会長が閉会の挨拶を行い、盛況裡の内に終了した。

経営情報委員会報告

藤 田 智 委員長

【2月定例会】

日 時 平成19年2月21日（水）午後6時30分～午後8時30分

場 所 川崎市中小企業・婦人会館 会議室

内 容 ・連絡事項
・講 演

テーマ：「オープンソースのビジネス展開」

講 師 オープンソースジャパン(株)

代表取締役 角田 好志 氏

（ソフトバンク刊「入門NetWare386」（共著）

日経BP社刊「ITマネジメントの常識を疑え！」等著書多数）

今回は、オープンソース・ジャパン株式会社代表取締役社長角田好志様に、オープンソース・ビジネスの普及啓蒙活動を中心に講演していただきました。オープンソースはソースコードが公開されたソフトで

在PCに使われているソフトは圧倒的にマイクロソフト社製です。日本では、単位あたりの価格はびっくりするような価格ではないので、ユーザーは従順に負担しているけれども、システム全体で集計してみたら莫大な金額になっていることに注目してほしい。安価で透明性の高いオープンソースシステムの普及を願ってビジネスしているとのことでした。

質疑応答で、参加者の皆様から鋭い質問が出ましたので、話題が硬すぎるのではないかという心配は杞憂に終わりました。普段水や空気のように利用しているPCについて少しばかり気配りするきっかけになればと思う幸いです。

商品開発委員会報告

羽曾部 松雄 委員長

【2月定例会】

日時 平成19年2月7日（水）午後6時30分～8時00分

会場 川崎市中小企業・婦人会館会議室

内容 ①『安心と安全』

講師：川崎市総務局危機管理室 岩間 勇人 氏

②懇親会

今回（2月7日）は「安全・安心」情報に関連して、川崎市総務局危機管理室地域防災力強化担当の岩間勇人氏に「ぼうさい出前講座」をお願いし、皆様で討議しました。

・先ず最初に阪神淡路大震災の被害の状況を生々しい写真で振り返りました。昭和56年以前の建築物が設計基準や老朽化の関係で倒壊が多く、神戸市内では、死者の内、88%の人が建物の倒壊で死んで、10%の人が焼け死んでいるそうです。（それも直前まで生きていて脱出出来ずにいた。）

また、助かった人の内、34%の人は自分で逃げ出して助かり、又、32%の人は家族に助けられ、又、28%の人は近くの人に助けられ、外部から駆けつけた救助隊に助けられたのは、たった2%であったそうです。大都会の密集地帯での大震災の現状に改めてびっくりし、いかに「自助、共助」が大切であるかを知りました。

川崎市の大地震発生の際の被害想定は平成9年に行われているが、マグニチュード7で震度5強となり、液状化現象が発生する可能性もあるそうです。

川崎市では、震度5強以上で災害対策本部を設置し、市職員14000人が市長、各区長を中心に対応し、避難所は174箇所あるそうです。

市立小中学校は全て避難所になります。また、一時避難場所として企業の施設を使用する協定を締結したり、遠隔の都市と相互援助協定を締結したりしているそうです。

企業に期待することは、自主防災マニュアルを整備することで、その中には、「顧客等への情報提供・安全確保」「管理施設内の安全確保」「自主防災体制の確立」「従業員の帰宅 措置」があります。

また、事業継続計画（BCP）の確立、防災資器材の備蓄、もあります。

川崎市が備蓄している非常食はごく僅かしかないので、最低3日分ぐらいの備蓄を自己管理して欲しいとのことでした。

お願い

広報部会では、皆さんの投稿をお待ちしております。

趣味の話、仕事の話、家族の話など、日頃胸の内に収めていることを、書いていただけたらと思います。

さらに、従来、好評であった、コラム「決断の時」をリフレッシュして、再開したいと考えております。現在の事業を始めたとき、親、親戚から事業を継いでくれと言われたとき、儲けすぎて笑いが止まらなかったとき、心配事が続いたとき等々、「今だから話せること」をお待ちしております。将来の出版も考えておりますので？、皆さんの力作をお待ちしております。原稿の提出先は、事務局にFAXか電子メールで。

新入 会員

有限会社 ネオスペーフロンティア

代表取締役 尾崎 正人



2006年12月に入会致しましたネオスペーフロンティアの尾崎です。私は黒潮流れる紀伊半島の先端に近い、和歌山県と三重県の県境に位置する新宮という市で育ちました。

しかし、東海大学工学部通信工学科を卒業後は、ほとんどを東京近辺で過ごし、住居も埼玉、東京と北から順に南へと、現在川崎に住居および会社を構えることとなりました。

大学卒業後は、回路設計を主としまして、おもちゃの電子回路設計や漏電ブレーカの検知回路の設計を数社の会社で行いましたが、卒業研究で行いましたコンピュータのソフト及びハードに関する研究が忘れられなくて、26の時にコンピュータ業界に飛び込んだのが現在の会社を作る出発点となっております。

また、弊社を作る直前に8年間在籍していました会社が松下系の映像会社であったことで、管理システムの経験の他に展示映像コンテンツや展示用ソフトウェアの制作も経験し、それと連動して編集した映像をインターネットから発信するといった技術も学ぶことができました。

そういった経験をもとにして、弊社で行っている「鉱物・岩石の世界」というインターネットと現実との橋渡しとなるようなホームページが出来上がってきたのです。

いま会社では、数社のホームページの運用の他に、計測制御に関するソフトウェアの開発、地震に関する移動計測代行、計測機器の販売、防災に関するコンテンツやソフトウェアの制作・調査を行っており、コンピュータシステムに関しては企画から制作までを手がける会社となっております。

まだ、設立して2年に満たなく、経営者としてもまだまだ未熟ではありますが、この川異研の中でいろいろと勉強していきたいと考えておりますので、今後とも、ご指導の程、よろしくお願い致します。

川異研メンバー募集中



川崎異業種研究会では、現在会員を募集しております。会員のお知り合いの方で、少しでも異業種交流に興味のある方をご存知でしたら事務局にご紹介下さい。なお、見学者も大歓迎ですので、ご友人等とお誘い合わせのうえ、定例会にご参加下さい。

事務局：川崎商工会議所中小企業振興部 TEL. 044-211-4114